

脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査のあり方 に関する研究公募の結果について

令和5年9月14日
大臣官房環境保健部
特殊疾病対策室

脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査のあり方に関する研究開始について



- 「令和5年度重金属等の健康影響に関する総合的研究（水俣病に関する総合的研究）」において「**脳磁計とMRI等を活用した健康調査のあり方の検討**」を掲げて研究公募手続を行った結果、1件の応募があり、以下の研究班が採択され、6月30日より研究開始。

- ・ 研究課題名：脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査研究の調査デザイン及びその技術的な課題整理を行うための研究
- ・ 研究予定期間：3年 ・ 研究費：167万円（令和5年度） ・ 契約日：6月30日
※契約日をもって研究開始
- ・ 主任研究者：中村 好一（宇都宮市保健所 保健医療監（自治医科大学 名誉教授））
研究協力者：水澤 英洋（国立精神・神経医療研究センター理事長特任補佐）
小佐見 光樹（自治医科大学助教）
高橋 邦彦（東京医科歯科大学教授）
立森 久照（慶應義塾大学特任教授）
中村 政明（国立水俣病総合研究センター臨床部長）
平井 俊範（熊本大学教授）
- ・ 研究の概要：脳磁計とMRI等を活用した、特措法第37条第1項の健康調査研究を行う上での技術的な課題や手法等について、公衆衛生学、生物統計学、脳神経内科学の観点を踏まえて、調査デザインの検討等を行う（脳磁計とMRIに関する研究についての評価分析や過去に実施された調査及び研究の情報収集・分析を行った上で、健康調査研究を行う場合の対象地域の設定、サンプリングの方法（inclusion criteria, exclusion criteria、募集方法など）、標本数の設定について、調査デザインの検討を行う。また、期待される結果、結果の解釈方法、limitation等を検討するとともに、調査を行う場合の技術的な課題を整理する。その後、その技術的な課題への対応策を検討するとともに、適切な調査デザインの設計を行う）。